

コミュニケーション広場

縄のれん式 “囲炉裏”



囲炉裏には家族や人を集結させる場としての機能が。食事中や、夜間は人が自然に囲炉裏の周りに集まり、会話が生まれる。カーピアセロムの執筆者、編集・制作者、全国の読者などが机を囲炉裏として集い、発信をして交流の輪が広がる、ヨコ型人間の触れ合うサロンが誕生。発信は下記へ。

●株式会社イベント工学研究所
カーピアセロム編集部 縄のれん式「囲炉裏」係
〒064-0820 北海道札幌市中央区大通西24丁目1-1-306
●ファックス/011-642-8315
●ホームページ/http://www.event-kougaku.co.jp

いたのではないかと思います) として郵送してもらってマンガ本を手に入れたと言うことです。電話の音がすごく感動的で嬉しい様子でした。こんな電話をいただいて小生も「マンガ北海道日産物語」を制作して本当に良かったとこちらも嬉しくなりました。川上様から住所、電話番号等お知らせいただきまして、小社から発送させていただきます。



このようなお話は「マンガ 札幌トヨベツト物語」を制作した時にもありました。東京に在住の札幌トヨベツト創業者の故岩澤靖元社長の奥様からの電話でした。親戚兄弟に配布したいと言うことで5冊ほど送ってあげました。 本当に編集制作者冥利につき、嬉しい話です。

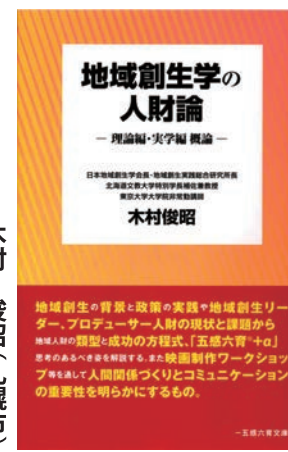
★ファイリング・コンサルタントの小野です。ご無沙汰しております。 数カ月ぶりにFacebookを書きましたら、早々にご連絡をいただき、嬉しく思います。 そちら札幌はもう「冬」なのだと思いま

★頂いた雑誌を、できるだけ多くの人に読んでもらっています。ご感想も興味深く読んでいます。一つだけ、目次がわかりづらいという人が何人もいることも伝えます。

＊ご指摘ありがとうございます。改善するよう検討します(編集部)

★いつもありがとうございます。 実にあつという間の一年でした。先行研究においても、ひとは30代から時が過ぎるのがとても早く感じると思います。それは、同じみち、同じしごとなど、あまり変化を求めず、新しいことに挑戦したり、新しい体験をしなくなるため、そのように感じるということです。

これからも、私は地域創生・SDGsの推進、地域人財(担い手)養成のため、「できない」を「できる」に変える、新しい挑戦を続けます。今後ともご教示のほど、どうぞよろしくお願い致します。



★10月30日、31日と北海道浦河町へ行って参りました。両日共に池田町長もバスに乘車、また現地の案内をされていま

すが、こちら岡山は1日の寒暖差が激しく、今日も先ほどまで冷房をつけていました。

私は東京のマンションが建て替えとなり、工期が4年かかるので、コロナ直前に実家がある岡山に一時的に戻ってきました。(東京のマンションは昨年9月に完成し、ちょうど1年になります)

先月10月29〜31日まで、水雲会と江戸楽会合同の岩手旅行に行きましたが、吉田勝昭さんや坂本信之さんも一緒で、いつもながらの楽しい学びの旅でした。皆様方と知り合って30年あまり(きつかけは「知恵の輪 札幌大会、あつ」という間に時間が過ぎましたが、(新宿の)ヒューマンハーバーでは、年齢・性別を超えてたくさんの方と学ばせて頂きました。

札幌。今思い出しましたが、整理収納アドバイザー1繋がりで札幌在住の桑島まゆみさん(一社)という方がいます。以前、青木先生が札幌で講演(たぶん佐藤さんが企画されたもの)だと思えます。注:弊社創立40周年記念講演された際に、彼女に案内し彼女は参加したと思いますので、佐藤さんも桑島さんをご存知かもしれませんね。

浦河大黒座で池田町長(右)と高橋さん(右から3番目)



2年ぶりにお目にかかり、懐かしくご挨拶をさせていただきました。佐藤さんとも皆さんとまたゆつくりお会いしたいとおっしゃっていました。

田中監督は11月12〜14日の間くらいに浦河に見えるようで、残念ながら今回お会いするチャンスはありませんでした。 グーグル検索で「道新浦河支局」大黒座10月30日」と検索し、浦河町長案内のバスツアーの見出しを開くと、「大黒座に札幌から訪問 浦河町長案内のバスツアー」の見出しで、大黒座の様子を町長と私(後姿)が写った写真があります。浦河出身の方々もツアーに5名ほど参加され、総勢25名程で大変賑やかなツアーでした。 追伸...JRA日高育成牧場の見学が大

色々セミナー等企画してもらい、私もお世話になりました。

車に関して言えば、私は東京生活がベースだったので「助手席の女!」とおっしゃっていましたが、63歳で車の免許を取得して、今までほとんど気に留めなかった交通ルールや運転手の気持ち等々考えるようになりました。少し成長。 教習所では、迎える車の予約から授業予約まですべてLineでやりとり。 教習所は合宿所仕様。女性のみのリラックスクールもあり、とても快適。

・20歳前後に交じって、仮免が通って一緒に食堂でお祝いランチしたりという経験



変身かったです。また町長の部屋や議室も拝見しました。



(コメント)町長がガイドするツアーいい企画ですね。全道の市町長さんも観光ガイドに出演してPRしてみてもいいでしょうか(編集部)

★11月のある日、突然嬉しい電話がありました。

北海道日産川上大二郎元社長の四女(86歳)の方からの電話で、現在兵庫県西宮市に在住とのこと。川上澄(きよし)元社長は兄に当たると話をしています。

電話の要件は、今年4月に当社で制作した「まんが 北海道日産物語」を読んで驚くやら嬉しいやらで感動しました。それであと4冊ほど送っていただけじゃないか」というお願いでした。では、どこでこのマンガ本を知ったのですかと聞くと「親戚のものが北海道日産のショールームに立ち寄ると、この本が置いてあり、社員の方に『私、川上大次郎の娘です』と話をしてお願ひして1冊いただきました」という。(おそらく北店で、総務部からいただ

長々となりましたが、ご連絡をありがとうございました。 とうございました。

小野 裕子(東京/岡山) 写真:弊社創立40周年記念講演会で青木匠光先生、右横は栢いつか氏、左横は車浮代氏

★岩手旅行 本欄「囲炉裏」に、旅で心揺さぶられた話を披露させていただきます。

水雲会が25年間にわたり続けている「タデイ旅行」今回は江戸楽会と共催)を、会の「旅の三原則」①手作りの旅にする ②現地の人々の声を聴く ③地産の料理・地酒を楽しむに沿い、10月下旬・3日間行いました。参加者16名。平泉、宮沢賢治ワールド、遠野、気仙地区・住田町、田老、宮古、盛岡を貸切バスで巡る「岩手旅行」です。

スタディテーマの一つとして選んだ東日本大震災後の被災地訪問として、参加者の岩手県出身者より紹介された気仙地区・住田町の震災時の町長・多田欣一氏を訪問。

住田町は同じ気仙地区の陸前高田市と大船渡市が甚大な被害を受けたのに比し、内陸に位置するため軽微でした。「森林・林業日本」を目指していた多田元町長は、2か月という短期間の間に93棟の木造仮設住宅を超法規的に建設、供用し、積極的に後方支援を行いました。 仮設住宅は「都道府県が」「被災地に」つくるということが災害救助法に定めら



れているにもかかわらず、多田町長は「未曾有の災害であれば、未曾有の対応が必要だ」として超法規的に対応し周囲を心配させました。しかし、議会が応援しました。

同町長はその他、飲料水供給、無料お風呂サービス、ボランティアの活動拠点の提供など積極的な後方支援を行い、そのアイディアは、後に中央省庁でも注目するところとなりました。また、この仮設住宅

建設の動きには、亡くなった音楽家の坂本龍一氏も参加し、化石燃料に頼らないエネルギーの地産地消にもつながる「ペレットストーブ」を提供しました。木造仮設住宅展示棟も見学しましたが、その機能性、居住性にははっと驚かされるものがありました。

多田元町長からは、「住田町木造仮設住宅と支援の歩み」と題して種々の話がありました。その中で特に印象に残ったのは、常日頃から住民コミュニティを形成しておくことの重要性を強調していることでした。その静かな語りには、飾らない温かい人柄と筋金の入った施政への姿勢が感じられ、心動かされました。いい人に出会い、いい話を聞く旅の醍醐味を味わいました。

今回の旅行の最終フィナーレは、盛岡で「わんこそば」の老舗、東屋本店で楽しんだ昼食会でした。郷土料理の絶妙な美味に加え、わんこそばの椀を次々と重ねていく独特の雰囲気や味わうことができたことも記憶に残る体験となりました。

水雲会 大須賀 敏剛
(埼玉県/志木市)

55歳からはじめる人づきあい ～定年後こそ仲間が必要だ!～ オンデマンド(ペーパーバック)

青木匡光 著

—ほんの少しの勇気をもって一歩を踏み出そう—

定年退職をしたら、わずらわしい人間関係から解放される。そんな風に思っていないだろうか。しかし実際に定年を迎えた時、わずらわしい人間関係はおろか、本音で話しあい、笑いあえる仲間すらも自分にはいないことに気づくケースが多い。だからこそ、55歳からの「新友(新しい友だち)」づくりが大切なのである。—相手に「つきあいたい」と思わせる人物とはどんな人なのか。仲間が集まれる「会」を作るにはどうすればいいのか。そして「新友」づくりに大切な心がけとはどんなものなのか…。会社を卒業した後の人生を粹にかっこよく生き抜くための秘訣が綴られた人生指南書。

[目次]

はじめに——人生を自立して生き抜きたいあなたへ

第1章 なぜ「55歳からの人づきあい」が求められるのか

第2章 55歳からはこんな「つきあい人(びと)」になりたい

第3章 ゼロからでも始められる「55歳からの人づきあい」

第4章 [座談会]こんな「会」ならつくってみたい——先輩旗手に学ぶ

第5章 自分流の「会」をつくらう

第6章 人間財産を生み出す「会」のマインドとは

第7章 自分自身を生き抜くパスポートを手に入れる

[担当からのコメント]

「人生100年時代」とも言われる昨今、心身ともにまだまだ元気であるにもかかわらず、好きなことや何気ない話題で盛り上がる仲間がいけないというのは寂しいものです。数年後に定年を控える方はもちろん、60代以上の方でも今日から実践できる人づきあいのコツが盛りだくさんな1冊となっていますので、ぜひ一読ください。

著書紹介

Building Relationships from Age 55
Friends Are More Important After Retirement!

55歳からはじめる人づきあい

青木匡光
定年後こそ仲間が必要だ!



[著者略歴] 青木匡光(あおきまさみつ)
◎ビジネス評論家、ヒューマンデザイナー(人間接客業)。1933年東京生まれ。小樽医科大学卒。三菱商事に10年間勤務したあと、広告会社に転職。1975年アソシエイツ・エイランを設立、異業種交流の場を提供。またサロン風のオフィスを「ヒューマンハーバー(人間の港)」として開放し、人間関係に悩む人たちに指針を与え、人生に意欲的な人同士を結びつけている。現在、異業種交流や人脈づくりのパイオニアとして講演、著作などで活躍中。著書は『顔を広め味方をつくる法』(日本実業出版社)、『人づきあいが苦にならない法』(PHP研究所)、『EQ型人間が成功する』(産能大学出版社)、『近著に『人づきあいの旅によう』(JDC)、『内気が苦にならなくなる本』(法研)などがある。